30.2.17

19

1

前略御免下さい

本日午后KO大学山岳部々室を訪ねました。富士山でのテスト
の結果は別紙の如くですが、その他に参考となるものが
あるようですから左記します、
。切断事故の発生について
(1) 穂高北尾根でのKO高校のザイル切断の事実なし、
丹沢でのKO高校生の遭難が誤り伝へられたのではないか、
(2) 富士ノ屏風尾根でのザイル切断……そう事故があったかどうかについ
ても知らない
(3) 大阪市立大のザイル切断については、部員全員が全然初耳である。
特に(3)についてと、65°の鋭角テストの大体の結果について話をした時には、
その場に居た部員全部はガクゼンたる面持で、今まで自分たちは
富士山でのテスト以来、ナイロンザイルに対してバクゼンたる不安を感じ
ていたが、そんな事実があるとすれば、もうナイロンザイルは使用出来
ないと云って居ました、
これでわかる様に、一般にはナイロンザイルのモロさと云ふものが充分
知れ渡っていないのではないでせうか

春山を前にして、一刻でも早く何らかの方法で一般の人々に周知させる必要を痛感しました、

○その他、人の話などで部員が知り得たことは、

(1)日大工学部で目下ナイロンザイルのテスト中だが、それによると

1.じワくと引張った引張り試験では、10cmのザイルが約30cmにまで伸びて切れた、

2.反対にショックの場合は麻の2ないし3倍弱い

特に2.は重要だと考えられますが、詳しいことも聞きに一度日大工学部を訪ねてみたいと思っています。

(2)東京製綱で、グラインダー状でのマサツ試験では、ナイロンザイルは麻ザイルに比して非常に(何倍位か不明)強い結果が得られた、

○東雲会の件について

堀さん宅に電話しました所、先日穂高―白馬縦走に出発、帰宅は三月廿日頃になるとのことでしたが、幸い大高さん(明神で落ちてケガをした人)と連絡がつき、明二十日午后自宅を訪ねて詳しい話を聞くことにしました。二十は別便で報告します。

二月十九日

岡利

コクヨ

東雲（1）

30. 2. 27

# 東雲会の場合

○ザイル購入の事情、

昭和二十九年二月に、東京好日山荘にて、マナスル用として作ったもの、残りを、長く巻いてあるものから40mに切ってもらひ二本購入した。その中の一本である。8mmか9mmかは不明、会では8mmとよんでゐた。

当ザイルは、その夏黒又白で2回と、此の日即ち十二月二十七日の明神岳東南稜（東尾根だったかも知れません）往復に使用、二十八日は第十回目の使用であった。

二十七日、二十八日の両日は快晴、日中は非常に暖かった。二十七日の夜はテントの中に入れて居いた。ザイルが切断したのは二十八日の午后一時半頃である。

現物は、現在堀さん宅にある筈だから二三日中に取寄せて居くとのこと、入手次第郵送します

○ナイロンザイル切断の状況及びその地点(略図及び写真参照)、

先づ確保者は、$P_1$にかけたカラビナでセルフビレイすると共に、二米にトップよりあたザイルを通してゴッヘルした。

トップ(大高)は左上に延ってゐるバンドをトラバースする。オーヴァハングの岩はバンドの終りあたりでカンテ状になって終ってゐる。二米を廻り込むと奥は約2mの滝をなし、滝の上にはロート状のルンゼがあり雪がつまってゐた。廻り込んだあたりで、肩の高さのあたりに$P_2$を打つ。此の時は既にトップは岩のカゲになって見えなくなり、たゞトップの右足が確保者の眼よりや、高い位置に見え(てゐ)たゞけである。尚トップがトラバース中に、延びたザイルが二、三度途中の岩角(小さな岩の突起らしい)にかゝりそうになったので、確保者は ~~二三度~~ ザイルを振ってはずした、ザイルが切断した時にひっかゝってゐたかどうかは記憶がない。

$P_3$について。トップは$P_2$から先のことは記憶が甚だ曖昧である。たゞ$P_3$を打ちたいと思ったこと、そして打ったとしても$P_2$と$P_3$との間隔はいくらもない、せいぜい30cmないし50cm位だったと思ったと云ふ記憶が残ってゐると言ってゐる。そして墜落した時のことも(全然)記憶に残ってゐない。

ただ廻り込んで約(P2より?)60°位の角度で左上方へ少し登った様な気がすると言ってゐる。

$P_3$君が落ちた時の状況についての確保者の記憶。

トップが見えなくなって、先づ$P_2$を打つ音が聞えた。間もなくして、次のハーケン($P_3$)を打ち直す音か、新しいハーケンを打つ音か知らないが、兎に角ハーケンを打つ音が聞えた。併し此の音はすぐに止んだ、音が止んでから約30秒の後トップは落ちて行った。確保者には全然ショックは伝はらなかった。

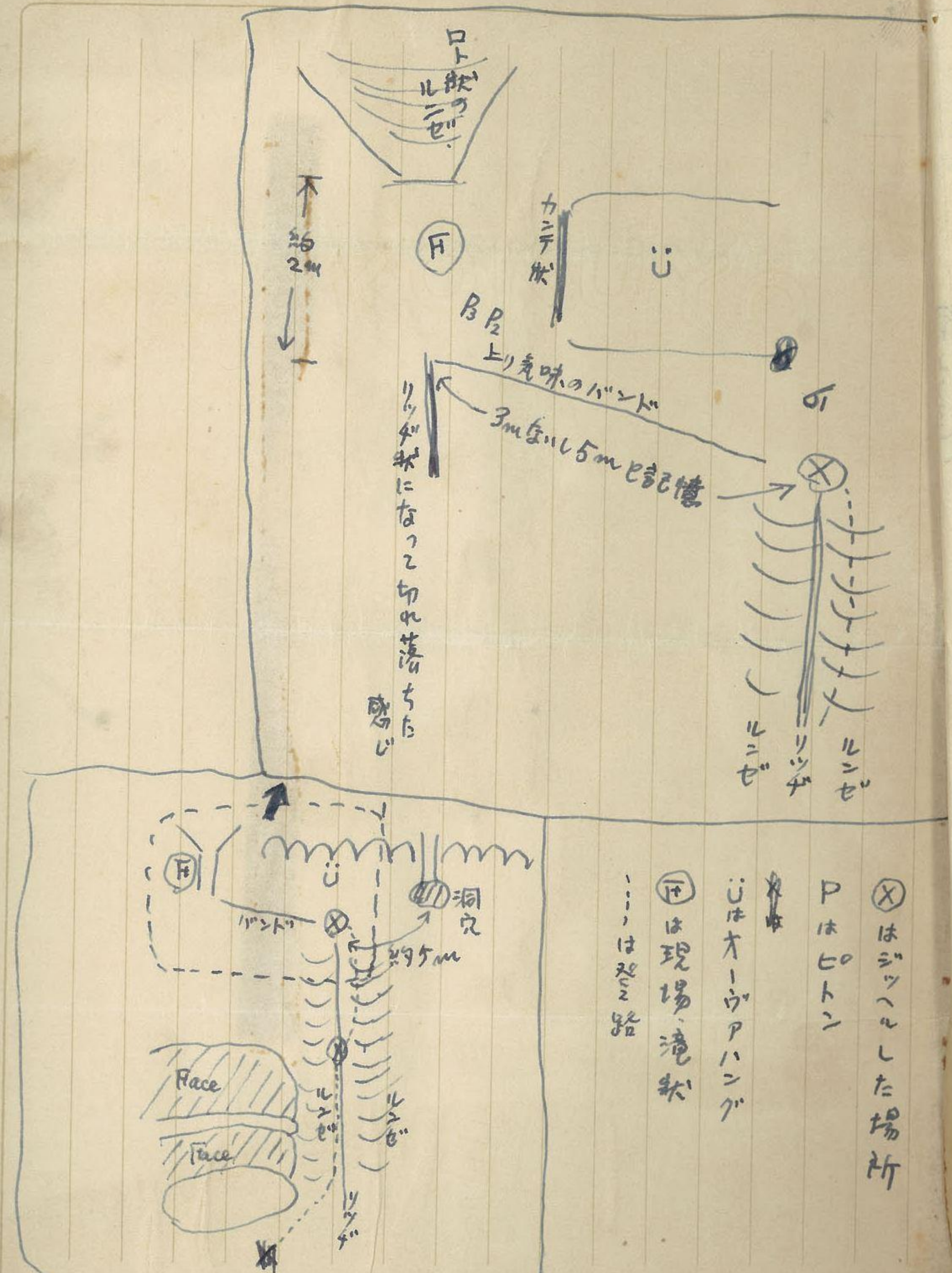
。切口の状態、

ザイルはトップより約1mの点で切断してゐた。3本より(ヨリ)の中2本は揃って切れ、他の一本は約1cmずれた位置で切れてゐた、3本ともプッツリ切れた感じで。何れも切れ口より約5mm程度ヨリがもどってゐた。

当時としては、あまりプッツリと切れてゐたので、何処か岩角ですれて切れたものと思ってゐた。 これについて先般のカラビナによる引張り試験の結果を話しますと、二人共意外な面持ちでした

$P_3$は打ってあったとしても、音が止んで30秒後に落ちたことから察して、恐らくこれにはカラビナをかけ且つザイルを通すひまも無かったのではないでせうか。$P_2$にかけたカラビナが支点になった様な気がします、

東雲会（図）


ロート状のルンゼ
約2m
F
カンテ状
U
BP2
上り気味のバンド
3mないし5mと記憶
リッヂ状になって切れ落ちた感じ
ルンゼ
リッヂ
ルンゼ
F
U
バンド
洞穴
約5m
Face
Face
ルンゼ
ルンゼ
リッヂ
⊗はジッヘルした場所
Pはピトン
Uはオーヴァハング
Fは現場、滝状
---は登路